

ビワの果実障害, とくにへそ黒症について
第4報 結果位置と発生

寺井 理治・一瀬 至・*浅田 謙介(長崎県果樹試験場・*現長崎県園芸課)

TERAI, O., I. ICHINOSE and K. ASADA: An Injury of Loquat Fruit so called "Hesoguro"
4. The Relation between Fruit Bearing Part and Occurrence of "Hesoguro"

ビワ果実障害の発生要因を明らかにするため, 1樹内の結果位置とへそ黒症発生の分布を調査したので報告する。

1. 調査方法

茂木種24年生の変則主幹形整枝の樹勢の強い樹と弱い樹及び茂木種22年生の樹形改造樹(一段盃状形)と変則主幹形樹をそれぞれ1本ずつ供試した。結果位置については, 方位別に樹冠を4等分し, さらに上下に2等分し, 区分けして収穫してへそ黒症の有無を調査した。へそ黒症発生の分布については, 収穫前にすべての果房とその果房の着いている枝にラベルを付け, 果房だけを収穫して, へそ黒症の有無を調査し, 果実の分布は, 果房を収穫した枝の位置を方位別に4等分し, さらに地面からの高さ, 主幹からの距離を測り, 結果枝の位置をそれぞれ50cm間隔に区分し果実の調査結果をあてはめた。

2. 調査結果及び考察

1) 結果位置が高いところの果実に発生が多くなる傾

向がみられた。2) 樹形の違いによる発生の差は認められなかった。3) 樹冠の外側の中～上部の果実に発生が多く, 樹冠内部及び下部の果実に発生が少ない傾向がみられた。

以上のように結果部によく日光の当たるところにへそ黒症の発生が多いような傾向がみられるので, 着果位置によって袋の種類を変える等の配慮が必要である。

第1表 ビワの樹勢の強弱と結果位置別へそ黒症の発生割合

樹勢	方位				位置		平均
	南東	南西	北西	北東	上	下	
強	7.1	5.6	4.0	6.5	7.5	4.1	5.8
弱	17.0	16.4	16.4	14.8	20.1	12.2	16.2

第2表 ビワの樹形とへそ黒症の方位別発生割合(%)

樹形	東	南	西	北	平均
改造	6	38	34	22	28
標準	27	37	11	25	31

第3表 ビワの結果位置とへそ黒症の分布 (%)

樹形	樹高	主幹からの距離 (m)							計
		~0.5	0.5~1.0	1.0~1.5	1.5~2.0	2.0~2.5	2.5~3.0	3.0~	
改造	3.0~				0				0
	2.5~3.0			11.1	30.7	15.8	5.6		63.0
	2.0~2.5		11.9	4.0	3.2	5.6	0.8		25.2
	1.5~2.0	0.8	0.8	0.8	2.4	6.3	0.8		11.9
	~1.5	0	0	0	0	0			0
	計	0.8	12.6	15.8	36.3	27.6	7.1		100
標準	4.5~	0.3	1.8	7.0	0.9				9.9
	4.0~4.5		9.3	4.4	2.6	3.5	0.6		20.3
	3.5~4.0	1.5	2.1	3.8	9.0	5.0	0.3		21.5
	3.0~3.5	0	0.6	3.5	8.4	6.1	2.9		21.5
	2.5~3.0		1.5	0.3	3.2	8.4	2.4	0.3	16.0
	2.0~2.5		0	0	0.3	5.0	1.8		7.0
	1.5~2.0		0	0	1.5	2.4	0		3.8
	~1.5		0	0	0	0.3			0.3
	計	1.8	15.1	18.9	25.8	30.5	7.9	0.3	100